

道玄だより

第6号



「建造物装飾の花鳥」

花鳥画は唐時代から盛んに描かれ、その後の宋時代に文人階級が勢力を持つようになると、儒教に基づいた守節（節義を堅く守って変えないこと）の思想を背景に、モチーフとして描かれる草花が象徴的な意味を持って描かれるようになる。

春を告げる梅は、花咲く頃に雪に遭うこともあり、困難にめげない人の徳の象徴となる。

竹は風にあおられ、腰を曲げる事はあっても折れない事から生活に汲々とせず節義を持って忍耐する人に喩えられる。

冬にもその葉の色を変えることがない松は、長寿の木であり、幾多の霜雪を経て枝を折られることがあっても真心は変えない喩えとなっている。

絵画的表現の目線で花鳥画を觀賞するのも面白いが、以上のようなモチーフが象徴している意味を解説するのもまた面白い。

しかしながら、現代の我々は花鳥画のモチーフに触れて、それらの象徴的な意味を読み解き感心するものの、そのものに込められた真意を汲み取れているのか疑問を持ってしまう。

古人はその意味するところを常に心から切に求めてやまず、モチーフにその「願い」「力」を封じ込めたように思う。

そのような眼差しで謙虚にその意味を読み解いていくなれば、今私達が心から必要としているメッセージが見えてくるかもしれない。

(森 歩)



上野東照宮 透塀の花鳥彫刻

現在、東京上野公園内にある上野東照宮透塀にある欄間彫刻の彩色調査工事を行っています。菱格子の上下に欄間彫刻があり、全部で300枚近い枚数となりますが、一部現存していない欄間もあります。

この欄間の配置ですが、特に上部にある欄間は、東西南北と四季が呼応して配置されていることが考察されました。

一部をご紹介しますと、東には「山桜にうそ」「梅にうぐいす」「つつじに隼」「柳にツバメ」などの欄間があり、まるで春を表しているようです。南は夏で「なすに蝶」「蛭袋にカマキリ」「アジサイに小鳥」など。西には「栗に猿」「葡萄にリス」「栗徳にスズメ」「紅葉に鹿」で秋を。北には「金柑にミソサザイ」「蜜柑に白カン」「柏にキツツキ」「柘榴にツグミ」で冬を表しているようです。

下部にある欄間は波や水鳥、貝など、水辺を表現したものが主ですが、失われているものが多いため、配置にどんな意味合いがあるのか不明な点が多いです。鴨、鷺、よしきり、カイツブリ、セキレイ、かもめや千鳥、そして蛙や亀も表現されています。



見取図作業

彫刻されている植物や生き物、その組み合わせやそれ自体に、なんらかの意図が表現されていると思うのですが、それが何であるか興味尽きないところです。現在詳しい内容について考察中です。

(中根 陽子)



透塀彫刻



彫刻考察小下図



上野東照宮は寛永4年(1624年)に創建され、現在の御社殿は慶安4年(1651年)に改築されたものです。360年あまりの間、現在のお姿をとどめております。その間幾度となく修復作業がおこなわれた痕跡も確認することができました。たとえば拝殿高欄の漆の層からは8回分にも及ぶ漆修復工程をつぶさに見ることが出来ました。過去から現在にしっかりと技術や意匠が伝承されている証しであります。

さて全体としては本殿、幣殿、拝殿で構成された権現造りになっており、その周りを唐門、透塀で取り囲んであります。銅板葺の屋根にも漆を塗り、置き上げ極彩色、漆塗り、金箔押し、鋳金具と何とも豪華な建物になります。

また御社殿には81枚の彫刻があり、唐門透塀には283枚の彫刻があります。

これら彫刻には一部を除き途絶えておりました生彩色を今回の修理で復元するという機会をいただき、創建当初のお姿が復活する事になります。彩色するにあたり、配色等の十分な根拠が必要になりますので、綿密な考察と協議のもと、作業にあたります。作業は2009年12月から着工し2013年12月に竣工を迎える予定です。しっかりと次の世代へ繋ぐ仕事をしたいと思っております。

(木村 広名)



透塀外部より



唐門 内部より

東照宮は、昭和38年から40年にかけて保存修理が行われて以降は本格的な修理が行われていなかったため、外部の塗装を始め経年による傷みが各所に見られた。今回の修理では、本殿、幣殿、拝殿(社殿)外部塗装と幣拝殿内部漆塗りの一部塗り直しと内部彩色の剥落止め、唐門、透塀全体の塗り直しを行なう計画である。

前回の修理では社殿外部の欄間彫刻と透塀の欄間彫刻が弁柄漆仕上げとなっていたが、修理に伴う調査により元は生彩色であることが分かったため、今回は生彩色とする方針で工事を進めている。

上野東照宮保存工事 設計監督より

花鳥にまつわる施工例

大阪府富田林市にある室町時代創建の重要文化財錦織神社。かつて本殿脇障子の絵画を復元いたしました。

1対の脇障子の右側はわずかな現存塗膜と明治期の白黒写真によって「錦鶏」と「唐松」の絵画だということが判明しました。

しかし向って左側については全く何が描かれていたのか、決め手となるような根拠がありませんでした。

そこで痕跡調査と類例調査をもとに、文建協の監督と入念な相談をした結果「白かん」と「梅」という組み合わせの絵画であると認定するに至りました。



先人がなんらかの意図を持って描いたであろう、わずかな痕跡のみの絵画。完全とは言い切れないにしても復元し、後世に残せたことは何より有意義であり、誇らしくうれしいことであります。

(山岡 憲史)

技術コラム ～漆職人は料理人??～



ある神社さんの漆塗修理に行っていたときの事です。

神主さんたちから作業現場を見られた際に「料理人の

厨房みたいだね」と驚かれたことがあります。

そこにはカセットコンロ（最近では電熱器）、和菓子

に使われる寒梅粉、エゴマ油、サラダ油などを並べていたからそのように思われたようです。

(長屋 進)

◇発行 株式会社さわの道玄

企画、編集：徳永陽子

〒604-8232

京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491番地

TEL 075-254-3885 / FAX 075-254-3886

http://www.sawanodogen.com (道玄だよりはホームページにも掲載しております)

浄土真宗の花鳥

「雪松雪梅図」等、浄土真宗本堂の中での襖絵の役割

福岡県飯塚市の正恩寺様に内外陣境の襖絵復元に際して大変多くのことを教えて戴いた。

「内外陣境の襖は、現世の俗界と聖域の極楽浄土との結界に位置している。この世はとても辛く厳しいものだが、救われればあの阿弥陀様が

おられる浄土がみえる。本堂全体でこの空間演出がされていて、この両界が襖で仕切られているので、この意味がしっかり表現されていなければならない。

厳冬に耐えながらも花をつける梅。常緑の松。共に厳しい世の中を生き抜いている。こういう厳しくも生かされていることを伝えていくのが、この襖絵だと思ふ。私たちはこの襖絵によって、次に世代にこの想いを託したい。襖絵はそういう役目も担っている。」

襖絵の仕事において貴重なお話をお聞きできましたので、紹介いたしました。

(竹明 美典)



私の好きな文化財

日本画について語る時、まず名前が出るのは狩野派である。約4世紀もの間日本の画壇に君臨した意味は大きい。今もなお、日本画の王道と言えば狩野派であり、その影響力は他の追随を許さない。

しかし、個人的には初期にはその狩野派で学んだが、より写実的な円山派の祖である円山応挙の作品に非常に吸い込まれる。

写実的という言葉では足りない位のリアリティが含まれている。作風は添付写真の孔雀のように生き生きとした様は比喻では無く、本当に今にも動き出す感がある。



円山応挙作 孔雀図(1781年)

鶏や孔雀が得意と言われるがその意見にも頷ける。応挙の作品にある現実感と安心感に浸る事が私の最高の贅沢である。

(丸田 泰史)

圓塾 さあくる講座のご案内

～圓塾は、文化財活用を推進する 圓さわの道玄の姉妹事業です。～

澤野道玄が文化の奥に秘められた世界をご案内いたします。2011年は、『いつか来た道-懐道(かいどう)をゆく-』を開講中です。

人生は、あたかも行方定まらぬ道そのもの。ひたすらに続く一本道、変化の多い曲り道、心迷う分かれ道・・・あなたの歩んできた道は？

奥深い文化が入り混じる六つの京の道が、あなたの懐かしい記憶を呼び起こします。

『いつか来た道-懐道をゆく-』フォトレポート



+ 第1回 地蔵道 4月9日(土)



桜の頃、旧奈良街道沿いを醍醐から日野へ。ここにたたずむ普願寺と恵福寺には、揃って珍しい大仏地蔵尊が祀られています。



すでに四軀は失われていますが、近くに六地藏の地名が残ることからも、この一帯には平安時代末期頃、大仏六地藏が祀られていたと類推されます。

一写真は恵福寺地蔵尊一



親鸞生誕の地であり、鴨長明隠棲の地である日野は、今ものどかな里です。



最後に美しい恵福寺の枝垂れ桜のもとで、お地蔵様と一緒にお弁当をいただきました。合掌。

(参加費) 1回：4,800円 4回セット：18,000円 3回セット：14,000円

- 第2回 尊菜道 5月22日(日)
- 第3回 皇道 9月25日(日)
- 第4回 太夫道 11月19日(土)
- 第5回 天神様の道 2012年1月25日(水)
- 第6回 余念坂 2012年3月4日(日)

圓塾(えんじゅく)へのお問い合わせはこちら

〒615-8205 京都市西京区松室中溝町30-11
TEL 075-382-1238 / FAX 075-382-1239
http://www.enjuku.info
圓塾代表 澤野ともえ

